

スターリン全集刊行会訳

スターリン全集

第十三卷

大月書店刊

スターリン全集

一九五三年五月二十五日発行

定価 四八〇円

第十三卷

訳者

スターリン全集刊行会

発行者

東京都文京区本郷一ノ五
小林直衛

印刷者

東京都千代田区内幸町二ノ二〇
株式会社太平印刷社

製本者

東京都千代田区錦町三ノ二四
株式会社田中製本所

発行所

東京都文京区本郷
一丁目一五番地

大月書店

電話小石川(85)三〇九一番
振替・東京一六三八七番

訳者はしがき

一 本巻は、ソ同盟共産党（ボリシェヴィキ）中央委員会付属 マルクス・エンゲルス・レーニン研究所編集の『イ・ヴェ・スターリン全集』第十三巻の翻訳である。

一 スターリンの原注は * をもってしめす。そのほかの注は、日本の読者の便宜を考え、原書の編集者注を参考にして、訳者がつけたものである。ごく簡単な注は、角がっこ（「」）にかこんで本文中にいたが、他は事項注と人名注とにわけ、本文の終りに一括してつけた。人名は、本文のなかに出てくるかぎり、原則として、すべて注をつけることにした。事項注は本文に出る注番号順に、人名注は「アイウエオ」順に、それぞれ排列した。

一 原文のゴシック体の箇所は訳文でもゴシック体にし、隔字体の箇所には傍点をつけ、頭文字だけでくんである箇所は活字をいちだん大きくした。ただし見出しのところは、かならずしもこの方針によらなかった。

一 本文のうえの欄外にある算用数字は、翻訳底本とした原書ページ数をしめす。

一 全集版原書では、『レーニン全集』からの引用のばあい、その第三版の巻数とページ数がしめしてあるが、翻訳にあたっては、それらをすべて第四版の巻数、ページ数にあらためた。

一 翻訳の参照は、マルクス、エンゲルスについては、『マルクス・エンゲルス選集』（大月書店版）、レーニンについては、『レーニン二巻選集』（社会書房版）によった。したがって角がっこ（「」）中の巻数、分冊数、

ページ数は、右の二つの選集の巻数、分冊数、ページ数である。

一人名、地名は現地の発音に近く表記することを原則としたが、慣用のものについては、それをもちいたばあひが多い。

一 翻訳は、それぞれ担当の訳者がまず訳出し、これに校閲者団が、各国語訳および邦訳をも参照しつつ、厳密に校訂をくわえ、さらに術語、用字、文体などの整理、統一をおこなって、完成したものである。

(V)

序 文

イ・ヴェ・スターリン全集第十三巻は、一九三〇年七月から一九三四年一月までに書かれた諸著作をおさめている。

この時期にボリシェヴィキ党は、全戦線にわたって社会主義攻勢を展開する政策を実現しながら、国の社会主義的改造の事業で、全世界史的な成功を勝ちとろうとつとめた。そしてソヴェト同盟は強大な工業国、集団化された大規模機械化農業の国となった。

『ソ同盟共産党（ボ）第十六回大会への中央委員会の政治報告の結語』のなかで、イ・ヴェ・スターリンは右翼日和見主義の指導者たちの二心ある行動をばくろしている。イ・ヴェ・スターリンは、社会主義建設の成功を特徴づけて、ソ同盟が社会主義の時期にはいったことを、しめした。また一国で社会主義が勝利した時期に、諸民族語は死滅し、それらは一つの国家のわくのなかで、一つの共通語に融合するという、反マルクス主義的、反レーニン主義的な理論を批判して、イ・ヴェ・スターリンは、社会主義が世界的規模で勝利したのちに、はじめて諸民族語は一つの共通語に融合するという、綱領的な命題を基礎づけた。

3 序 文
(VI)
演説『経済活動家の任務について』と『新しい情勢——経済建設の新しい任務』のなかでは、イ・ヴェ・スターリンは社会主義的工業化の急速なテンポの歴史的必要性を基礎づけ、国民経済のすべての部門の改造の時期には

技術が決定的な意義をもつことをしめし、「ポリシエヴィキは技術を習得しなければならない」というスローガンをかかげている。イ・ヴェ・スターリンは、社会主義工業の発展のための新しい諸条件を明らかにし、経済建設の新しい指導方法を指示している。

ソ同盟共産党(ボ)中央委員会・中央統制委員会合同総会での報告『第一次五カ年計画の総結果』のなかでは、イ・ヴェ・スターリンは、第一次五カ年計画を四年で遂行しとげたことが、きわめて重要な国際的意義をもつことをしめしている。全資本主義制度が世界経済恐慌によってゆりうごかされていた、この時期に達成された五カ年計画の総結果は、生涯をおえつつある資本主義経済制度にたいするソヴェト社会主義制度のあらそい余地のない優越性をしめした。

イ・ヴェ・スターリンは、五カ年計画の勝利を確保させた、基本的な諸力についてのべつつ、なによりも第一に、労働者とコルホーズ員の幾千万大衆の積極性と献身、熱情とイニシアティヴとをあげている。彼らは技師、技術家の部隊とともに、社会主義競争と突撃生産を展開するために巨大なエネルギーを発揮したのである。

五カ年計画の総結果と関連する党の基本的な諸任務を規定して、イ・ヴェ・スターリンは、共同の社会主義的所有を強欲者や私消費者からまもることが、とくに重要であること、力をつくしてプロレタリアートの独裁を強化することが必要であること、をおしえている。

演説『農村における活動について』および『コルホーズ突撃隊員第一回全国大会での演説』は、コルホーズ体制の強化の諸問題と農村における党活動の諸任務をとりあつかっている。農村における仮面をかぶった階級敵どもの新しい戦術をばくろしつつ、イ・ヴェ・スターリンは、警戒心をたかめるようにと党の諸組織に呼びかけて

いる。またコルホーズ建設の総決算をおこないつつ、イ・ヴェ・スターリンは、コルホーズをポリシエヴィキ的なものにし、コルホーズ農民を富裕にすることというスローガンをかけている。

イ・ヴェ・スターリンの諸著作、すなわち『プロレタリアスカヤ・レヴォリュチーア』誌編集局への手紙、『ポリシエヴィズムの歴史の若干の問題について』および『オレフノヴィチとアリストフへの回答』は、ポリシエヴィズムの歴史のきわめて重要な諸問題をとりあつかっている。トロツキストその他のありとあらゆる、わが党史偽造者どもをばくろして、イ・ヴェ・スターリンは、党史研究の事業を科学的、ポリシエヴィキ的な軌道にのせるように呼びかけ、レーニン主義はあらゆる色合いの日和見主義との容赦ない斗争のなかで生まれ、成長し、強化されたものであることを強調している。

(VIII)

デミヤン・ベードヌイへの手紙では、イ・ヴェ・スターリンは、デミヤン・ベードヌイのいくつかの詩形のフイェトン「新聞の文芸欄の記事や小品」が反愛国的な傾向でつらぬかれており、レーニン主義からの明らかな後退であることを指摘している。イ・ヴェ・スターリンは、ロシアの労働者階級が自由と社会主義をめざす戦いの偉大な模範を人類にあたえたことを強調している。このことはロシアの労働者の胸に、山をもうごかし、奇蹟をもなしとげうる、革命的な民族的誇りの感情をうえつけている。イ・ヴェ・スターリンは、ソヴェトの作家たちにむかって、先駆的プロレタリアートの歌い手としての任務をはたしうるまでに、自己をたかめるように呼びかけている。

『ドイツの作家エミール・ルードヴィッヒとの会談』では、イ・ヴェ・スターリンは歴史における個人と人民大衆との役割の問題の理論的な解明をあたえている。E・ルードヴィッヒの質問にこたえて、イ・ヴェ・スター

リンは、彼がその生涯をささげている任務は、労働者階級をたかめ、社会主義国家を強化することであると宣言している。社会主義国家の強化は、とりもなおさず国際労働者階級全体の強化を促進するものである。

外国の活動家たちとのかずかずの会談で、イ・ヴェ・スターリンはソヴェト国家の对外政策を首尾一貫した平和政策として特徴づけ、ソ同盟と資本主義諸国との平和的共存と実務的關係の設定とが可能であることを論証している。

『ソ同盟共産党（ボ）中央委員会の活動にかんする第十七回党大会への一般報告』では、イ・ヴェ・スターリンは、ソ同盟における社会主義の偉大な勝利の総決算をおこない、第十六回大会以後の期間に国内でおこった根本的な改革を指摘し、社会主義的国民経済と文化のすべての部門における、もろもろの成功を指摘しているが、これらの成功は党の一般方針の完全な勝利を証明するものである。イ・ヴェ・スターリンは、党がこの成功をお

(XI)

さめたのは、マルクス、エンゲルス、レーニンの不敗の学説にみちびかれて活動をおこなったおかげであることを強調している。イ・ヴェ・スターリンは、工業、農業および、その他の国民経済の諸部門の分野での、また文化と科学の分野での、党の今後の活動計画を立てさだめている。イ・ヴェ・スターリンは、組織指導を政治指導の水準までたかめ、党の思想活動を強化し、人々の意識のなかにのこっている資本主義の残存物にたいする戦いを強化するという任務を提起している。

イ・ヴェ・スターリンは、資本主義の全般的危機を根底にもつ世界経済恐慌の動向を分析し、資本主義制度の全般的危機の諸条件のもとでは、資本主義は、工業の新たな高揚と繁栄をもたらすことのない、特殊な不景気の状態にあることをしめしている。イ・ヴェ・スターリンは、資本主義諸国の内部における政治情勢の尖鋭化と、

これらの諸国のあいだの關係の尖鋭化とを特徴づけ、帝國主義者たちによる新しい世界戦争の準備を特徴づけている。

イ・ヴェ・スターリンは、戦争放火者どもの計画をばくろし、事態の今後の進展を科学的に予見して、ソヴェト同盟にたいする戦争は帝國主義者どもにとつてもつとも危険な戦争であらうということ、ソ同盟の諸民族は革命の成果をまもるために死をかけてたたかうであらうということ、戦争は侵略者を完全な敗北にみちびき、ヨーロッパとアジアの一連の国々における革命と、これらの国々のブルジョア地主政府の壊滅とをもたらすであらうということを、指摘している。イ・ヴェ・スターリンは、ソ同盟の對外政策を平和維持の政策として規定している。イ・ヴェ・スターリンは、帝國主義諸國家の攻撃からソヴェト國家を防衛する準備をととのえておくために、ソヴェト國家の國防力を強化する必要があるについて警告している。

第十三卷では、つぎの諸著作がはじめて發表されている。——同志シャトウノフスキーへの、同志チエーへの、デミヤン・ベードヌイへの、同志エツチンへの、同志イ・エヌ・バジャノフへの、イ・ヴェ・スターリンの手紙、ラルフ・V・バーネスの質問にたいするイ・ヴェ・スターリンの回答、およびバーネス氏の手紙にたいする回答、ロビンズ大佐との会談。

ソ同盟共産党（ボ）中央委員會付屬
マルクスⅡエンゲルスⅡレーニン研究所

目 次

序	文	三
ソ同盟共産党(ボ)第十六回大会への中央委員会の政治報告の結語		一七
同志シヤトウノフスキーへの手紙		三三
同志チエ——への手紙		三七
同志デミヤン・ベードヌイへの手紙		四一
反ユダヤ主義について		四八
経済活動家の任務について		五〇
同志エツチンへの手紙		五四
アズネフチとグロズネフチの付き手たちへのあいさつ		六六
エレクトロザヴォードへ		六七
マグニットゴルスクのマグニットストロイへ		六八

トラクトロツェントル管理部代表へ	九
すべての機械トラクター・ステーションへ	七
穀物トラスト管理部議長へ。すべての穀物ソフトウェアへ	七
新しい情勢——経済建設の新しい任務	七
一 労 働 力	七
二 労 働 者 の 賃 金	七
三 労 働 組 織	八
四 労 働 者 階 級 の 生 産 的 〓 技 術 的 イ ン テ リ ゲ ン ツ イ ア の 問 題	八
五 旧 来 の 生 産 的 〓 技 術 的 イ ン テ リ ゲ ン ツ イ ア の あ い だ で の 転 換 の 兆 候	八
六 ホズラスチャートについて	九
七 新しい方法で活動し、新しい方法で指導すること	九
「アモ」の労働者および管理〓技術部員へ	一〇
ハリコフのトラクトロストロイの労働者および管理〓技術部員へ	一〇
新聞『テフニカ』によせて	一〇
ポリシエヴィズムの歴史の若干の問題について	一〇

ニージニーノヴゴロドの自動車工場へ……………	二三
ドイツの作家エミール・ルードヴィッヒとの会談……………	二三
ニージニーノヴゴロドのアフトストロローイ所長……………	二四
およびモロトフ自動車工場の企業長へ……………	二四
サラトフのコンバインストロローイ所長……………	二四
およびコンバイン工場の企業長へ……………	二四
オレフノーヴィチとアリストフへの回答……………	二五
マグニットゴルスクのマグニットストロローイに……………	二五
『アソシエイトッド・プレス』通信社代表……………	二五
リチャードソン氏の手紙にたいする回答……………	二五
訴願局の意義と任務について……………	二六
ラルフ・V・バーンズの質問にたいする回答……………	二六
クズネツクのクズネツク冶金工場へ……………	二六
ソ同盟レーニン共産青年同盟第七回全国協議会へのあいさつ……………	二六
マクシム・ゴーリキーへのあいさつ……………	二六

ドニエプロストロイの建設者たちに	一六七
レニングラードへのあいさつ	一六八
『プラウダ』編集局への手紙	一六九
キャンベル氏はうそをついている	一七〇
キャンベル氏との会談の控え	一七一
合同国家保安部十五周年によせて	一八二
ソ同盟共産党(ボ)中央委員会・中央統制委員会合同総会	一八三
第一次五カ年計画の総結果	一八五
一 五カ年計画の国際的意義	一八五
二 五カ年計画の基本的任務とその実現の道	一九六
三 工業の分野での五カ年計画を四カ年で遂行した総結果	二〇三
四 農業の分野での五カ年計画を四カ年で遂行した総結果	二二三
五 労働者と農民の物質的狀態の改善の分野での五カ年計画を四カ年で遂行した総結果	二三〇
六 都市と農村とのあいだの商品流通の分野での五カ年計画を四カ年で遂行した総結果	二三六
七 敵階級の残存分子との斗争の分野での五カ年計画を四カ年で遂行した総結果	二三〇
八 一般的結論	二三五

農村における活動について	三九
『ラポートニツァ』に	三五七
同志イ・エヌ・バジャーノフへの手紙	二五八
コルホーズ突撃隊員第一回全国大会での演説	二六〇
一 コルホーズの道は、ただ一つの正しい道である	二六〇
二 われわれの当面の任務は、すべてのコルホーズ員を裕福にすることである	二六九
三 個々の注意	二七四
赤軍十五周年にあたっての赤軍へのあいさつ	二八一
バーンズ氏の手紙にたいする回答	二八三
同志エス・エヌ・ブダヨヌイに	二八五
ロビンス大佐との会談	二八六
ソ同盟レーニン共産青年同盟十五周年記念日のあいさつ	三〇〇
『ニューヨーク・タイムス』紙特派員デュランティ氏との会談	三〇二
ソ同盟共産党(ボ)中央委員会の活動にかんする	
第十七回党大会への一般報告	三〇九

一 世界資本主義のひきつづく恐慌とソヴェト同盟の対外的地位	三〇九
一 資本主義諸国における経済恐慌の動向	三二一
二 資本主義諸国における政治情勢の尖鋭化	三二七
三 ソ同盟と資本主義諸国家との関係	三六
二 ソ同盟の国民経済のひきつづく高揚と国内情勢	三三
一 工業の高揚	三六
二 農業の高揚	三四三
三 勤労者の物質的狀態と文化との高揚	三五六
四 商品流通と運輸の高揚	三六二
三 党	三六八
一 思想指導、政治指導の諸問題	三七〇
二 組織指導の諸問題	三八六
フルンゼ記念労農赤軍軍事大学長、政治委員、同志シヤポ シニコフに。政治部補佐、同志シチャヂェンコに	四〇二
結語のかわりに	四〇三
事項 訳注	四〇五

人名 訳注		四三
スターリン年譜（一九三〇年七月—一九三四年一月）		四三